

実施報告書

2023 年度日系社会次世代育成研修

(中学生招へいプログラム) 第 1 陣

2023 年 6 月 19 日～7 月 12 日



2023 年 9 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 中南米部

公益財団法人海外日系人協会

目次

1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要	1
2. 参加者情報	3
3. 2023年度第1陣プログラム日程	5
4. プログラム内容	6
5. 研修員のひとこと感想	24
6. 引率者の所感	28
引率者 羽田野 香里（コロンビア）	
7. 総評	30

【参考】2023年度「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」募集要項



1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要

(1) 研修の沿革および目的

本研修は独立行政法人国際協力機構（JICA）が中南米地域への移住者の定着・安定のために移住者子弟教育として1987（昭和62）年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012（平成24）年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015（平成27）年度からは「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」として実施しています。

本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティの強化を図ることを目的としています。

さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

(2) 対象国および人数

通常：第1陣は5カ国13名、第2陣は5カ国36名の10カ国49名（他引率者2名）

第1陣：カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラ

第2陣：ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン

2023年度：第1陣は5カ国21名（他引率者1名、安全・健康管理員3名）で実施。

※ 新型コロナウイルス感染拡大により、2020～2022年度に本邦研修が中止となったことから、2023年度に関しては、通常の受け入れ人数に加え、特別枠として、高校生相当（16歳以上18歳以下）の子弟を追加募集しました。

研修員出身国 内訳

受入	対象国	参加者数	通常枠 (中学生)	特別枠 (高校生)	引率者、安全 ・健康管理員
第1陣 5カ国21名 (引率者1名、安全・ 健康管理員3名)	カナダ	4名 (男1名、 女3名)	4名 (男1名、 女3名)	0名 (男0名、 女0名)	0名 (男0名、 女0名)
	メキシコ	6名 (男3名、 女3名)	3名 (男2名、 女1名)	3名 (男1名、 女2名)	1名 (男0名、 女1名)
	ドミニカ 共和国	8名 (男4名、 女4名)	4名 (男1名、 女3名)	4名 (男3名、 女1名)	1名 (男1名、 女0名)
	ベネズエラ	2名 (男0名、 女2名)	1名 (男0名、 女1名)	1名 (男0名、 女1名)	1名 (男1名、 女0名)
	コロンビア	1名 (男0名、 女1名)	1名 (男0名、 女1名)	0名 (男0名、 女0名)	1名 (男0名、 女1名)
		21名 (男8名、 女13名)	13名 (男4名、 女9名)	8名 (男4名、 女4名)	4名 (男2名、 女2名)

(3) 研修期間

現地の学校事情に合わせ、上記(2)のとおり2グループに分けて実施しています。

第1陣：毎年度6月第2～3週から24日間程度

第2陣：毎年度1月第2～3週から24日間程度

(4) 研修概要

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館の見学 移住に関する講義、ワークショップ 各研修員のルーツを探る	JICA 横浜 史跡、博物館等
体験入学	授業出席 部活動 日本の中学生との交流等	横浜市内の中学校
ホームステイ	日本での実生活体験	神奈川県近郊、 各ご家庭
所外研修	日本の文化体験、 社会教育施設・科学技術館等の見学	神奈川県内
その他	プレゼンテーション指導 作文指導 研修報告会	JICA 横浜

2. 参加者情報

No.	国名	所属日本語学校名	①日本で体験したいこと ②趣味・特技等	得意な学科
1	カナダ	トロント国語教室/ オンタリオ州トロント市	①由緒正しい神社にお参りに行ってみたい、お守りを買いたい ②イラストを描くこと、日本の音楽を聴くこと、水泳	数学、美術
2	カナダ	グラッドストーン日本語学園/ ブリティッシュコロンビア州バーナビー市	①中学校の生活と文化を体験したい ②-	-
3	カナダ	日加学園/ オンタリオ州スカーバロー市	①学校生活、日本での生活、ちがう国から来た研修員とのふれあい ②バドミントン、ピアノ、お琴	数学
4	カナダ	ビクトリアヘリテッジ日本語学校/ ブリティッシュコロンビア州ビクトリア市	①中学校体験入学、日本のアイスホッケーの試合を見たい ②アイスホッケー、スポーツ全般	英語、理科
5	メキシコ	日本メキシコ学院/ メキシコ連邦区メキシコシティ	①日本の学生の生活体験、日本の伝統的な音楽、食べ物、日本とメキシコの違いを見つけて、日本に興味のあるメキシコ人に発信したい ②剣道	-
6	メキシコ	日本メキシコ学院/ メキシコ連邦区メキシコシティ	①ほかの国の日系人と友達になって、彼らがどのように日本とのつながりを保っているのか知りたい、日本の生活を体験したい ②絵を描くこと、ダンス、バレエ、サッカー	論理、数学
7	メキシコ	なし/ メキシコ連邦区メキシコシティ	①日本の学校や日本人の家族と日本の生活を体験したい。日本の文化、科学技術にも興味がある ②ピアノ、テニス	科学
8	メキシコ	日本メキシコ学院/ メキシコ連邦区メキシコシティ	①中学校での授業、部活動への参加、武道(弓道)、コンビニへ行ってみたい ②バスケットボール、剣道	数学
9	メキシコ	中央学園/ メキシコ連邦区メキシコシティ	①学校や日本の生活を体験したい、学生が話す問題が日本とメキシコでどう違うのか調べたい、恐竜について日本の中学生と話したい ②エイサー、ハンドボール、恐竜について詳しく調べること	自然科学
10	メキシコ	なし/ オアハカ州	①日本の学校の部活を体験してみたい、日本の友だちを作りたい、日本の学校がどんな環境か見てみたい ②将棋、バドミントン、合気道	数学
11	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校/ サント・ドミンゴ市	①日本の家族に会いたい、富士山を見たい、日本料理を食べて日本の文化を知りたい、買い物をしたい、日本の学校へ行きたい ②水泳、料理、絵を描くこと	数学、社会、英語、国語
12	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校/ サント・ドミンゴ市	①日本での生活がどのようなものか知りたい、祖父母の母国を知りたい、日本での経験をほかの人と共有したい ②バレーボール、バレエ、ピアノ、テニス、水泳、バイオリン、太鼓	数学

No.	国名	所属日本語学校名	①日本で体験したいこと ②趣味・特技等	得意な学科
13	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校/ サント・ドミンゴ市	①すし屋とラーメン屋へ行きたい、おじさんに会いたい、富士山や東京へ行きたい、日本文化を知りたい ②ビデオゲーム、野球、サッカー	数学、英語
14	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校/ サント・ドミンゴ市	①日本料理を食べたい、おばあちゃんに会いたい、買い物へ行きたい、色々な人と友達になったり、日本の文化を知りたい ②テニス、読書、バイオリン、絵を描くこと、バレーボール	数学、美術
15	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校/ サント・ドミンゴ市	①私の家族のルーツを知り、他の学生と交流したい、日本の経験を家族や友達と共有したい、日本の学校をみて、日本でいろいろな生活を体験したい ②読書、絵を描くこと、バレーボール	数学、美術、理科
16	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 ダハボン校/ ダハボン州ダハボン市	①観光、親戚を訪問、いろいろなものを食べたい ②野球、ゲーム	理科
17	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校/ サント・ドミンゴ市	①日本のテクノロジーと空軍の飛行機を見たい、日本の親戚に会いたい、友だちを作りたい ②バレーボール、空手、読書	理科
18	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校/ サント・ドミンゴ市	①日本の文化を勉強したい、日本に住んでいる家族に会いたい、日本の食べ物が食べたい、日本の学校に行き学生と話したい ②バレーボール、友だちと出かけること	生物学、社会科学
19	ベネズエラ	カラカス日本語教室/ ミランダ州カラカス市	①日本人の生活や文化を体験したい、日本語を聞きたい、日本の食べ物を食べたい ②読書、音楽を聞くこと、ジョギング	-
20	ベネズエラ	カラカス日本語教室/ ミランダ州カラカス市	①日本文化や習慣などを実際に体験したい、日本人と日本語で話したい ②お菓子作り、テニス	数学
21	コロンビア	コロンビア日系人協会付属日本語センター光園/ バジェ県カリ市	①日本文化、日本人とのコミュニケーションを体験したい ②テニス	-

引率者	コロンビア	メデジン日本文化センター「春のひなた」 日本語教師/ アンティオキア県メデジン市
健康管理	メキシコ	日本メキシコ学院 日本語教師/ メキシコ連邦区メキシコシティ
健康管理	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 アシスタント・ グラフィックデザイナー/ サント・ドミンゴ市
健康管理	ベネズエラ	ソフトウェアエンジニア/ ミランダ州カラカス市

3. 2023年度第1陣プログラム日程

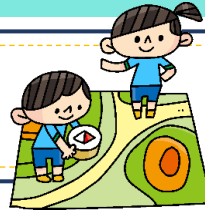
2023年6月7日現在

つき 月	ひ 日	ようび 曜日	ご ぜ ん 午 前			ご ち 午 後			よる 夜	ひこう 備考	
			あさ かい 朝の会	げん 1限 9:30~10:20	げん 2限 10:30~11:20	げん 3限 11:30~12:20	げん 4限 14:00~14:50	げん 5限 15:00~15:50			げん 6限 16:00~16:50
6	19	げつ 月	らいにち 来日						なし	うわば さいずん 上履き採寸	
	20	か 火	あさ かい 朝の会	まようさいいびひん ほんいふ しょういいていしゆつ 教材・備品の配布、書類 提出	かいこうしき 開講式	らいにち 来日フリーフィング		かつどう グループ活動	ゆうがた かい 夕方の会	○	じこ しょうかい 自己紹介
	21	すい 水	あさ かい 朝の会	アイスブレイク			もくひよう せつてい らいにち 目標 設定、来日アンケート、	かつどう グループ活動	ゆうがた かい 夕方の会	○	
	22	もく 木	こうじょうけんがく かがくかん にほんみんかえん しょういがくしゅう 工場見学、科学館、日本民家園 (所外学習)							○	しょうがいけんしゅう 所外研修
	23	きん 金	あさ かい 朝の会	ちゅうがっこうほうちん 中学校訪問オリエンテーション		しょうがいけんしゅう じぜんがくしゅう 所外研修 事前学習		ゆうがた かい 夕方の会	なし		
	24	ど 土	きゅうじつ 休日						なし	ふくりこうせい 福利厚生①	
	25	にち 日	きゅうじつ 休日						○		
	26	げつ 月	おだわら ほんね しょういがくしゅう 小田原・箱根 (所外学習)						○	しょうがいけんしゅう 所外研修	
	27	か 火	あさ かい 朝の会	ちゅうがっこうたいけんじゅんび 中学校 体験準備 / プレゼンテーション作成		よこはまこどもこくさいへいわ よこはま子ども国際 平和スピーチコンテスト		ゆうがた かい 夕方の会	○		
	28	すい 水	あさ かい 朝の会	にほんぶんが 日本文化		にほん まな 日本で学ぶ		ゆうがた かい 夕方の会	○		
	29	もく 木	ちゅうがっこうけんがく こうりゅうかい みなとちゅうがっこうほんもくちゅうがっこう 中学校 見学・交流会 (港 中学校、本牧 中学校)						○		
	30	きん 金	ちゅうがっこうけんがく こうりゅうかい なかおだい ちゅうがっこう 中学校 見学・交流会 (仲尾台 中学校)			ちゅうがっこうけんがく こうりゅうかい よこはまよしだ ちゅうがっこう 中学校 見学・交流会 (横浜 吉田 中学校)			○		
7	1	ど 土	にここうりゅうび ホストファミリーとの1日交流日						なし		
	2	にち 日	きゅうじつ 休日						○		
	3	げつ 月	あさ かい 朝の会	いじゅうがくしゅう 移住学習		ちゅうがっこう 中学校・ホストファミリーとの1日ふりかえり		ゆうがた かい 夕方の会	○		
	4	か 火	かまくら しょういがくしゅう 鎌倉 (所外学習)						○	しょうがいけんしゅう 所外研修	
	5	すい 水	あさ かい 朝の会	いじゅうがくしゅう 移住学習		かんきょうがくしゅう しょういがくしゅう 環境学習 (所外学習)			○	しょうがいけんしゅう PM所外研修	
	6	もく 木	あさ かい 朝の会	こくご 国語		ほうこくしよ さくせい 報告書 作成		ゆうがた かい 夕方の会	○		
	7	きん 金	あさ かい 朝の会	ほうこくしよ さくせい 報告書 作成		ほうこくかい じゅんび 報告会 準備		ゆうがた かい 夕方の会	なし		
	8	ど 土	きゅうじつ 休日						なし	ふくりこうせい 福利厚生②	
	9	にち 日	きゅうじつ 休日						○		
	10	げつ 月	あさ かい 朝の会	ほうこく かい じゅんび 報告会 準備		(14:00~16:00) けんしゅういんほうこくかい 研修員 報告会	(17:00~17:30~18:00) へいこうしき そらべつかい 閉講式・送別会		○		
	11	か 火	あさ かい 朝の会	きこく 帰国フリーフィング・帰国前アンケート	けんさ PCR検査	(13:30~14:30) いんそつしやほうこくかい 引率者 報告会	にもつじゅんび / にもつかりよう 荷物準備/荷物計量		○		
	12	すい 水	きこく 帰国								

4. プログラム内容

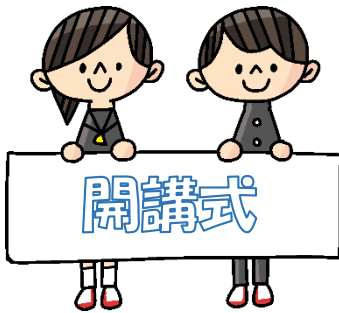
いよいよ、研修開始！

2023年6月20日



研修初日。まだまだ緊張感のたどよう雰囲気の中、開講式が始まりました。最初に、JICA 横浜センターの三田村次長より、この研修における3つの大事なことについてお話をいただきました。

①この研修がどうして横浜で実施されているのか、②日本が研修員の住む国の日系社会と協力して絆を深めていきたいと思っていること、そして、③研修員の皆さんにこの研修で学んでほしいことの3つです。研修員は、この大切な3つのことをしっかりと心に刻み、自身のルーツを探る旅へ一歩を踏み出します。



ようこそ、日本へ！

カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、ベネズエラ、コロンビアからの研修員 21 名は、地球の反対側から長い時間をかけて、ようやく日本にたどり着きました。日本での大冒険が、ここから始まります。これから 21 名で作りに上げていく研修の日々。どのような 3 週間になるでしょうか。今から楽しみです。

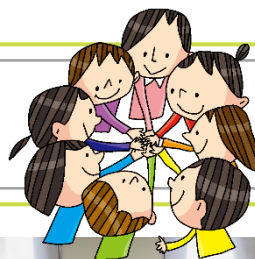
研修員に質問！

お家で食べる好きな日本食は？

1. カレー、すし (9票)
2. ラーメン (6票)
3. おこのみやき (5票)
4. うどん、もち (4票)
5. おにぎり、かつ丼 (3票)
6. みそ汁、親子丼、(2票)
7. 天ぷらそば、卵ごはん、たこ焼き、かつ、焼きそば、どら焼き、そうめん、オムライス、すき焼き、たい焼き、からあげ、のり、ふりかけ、てりやき、チンジャオロース (中華?) …etc.



仲間づくりへの第一歩



2023年6月21日



研修2日目の午前中はお互いをよりよく知り、緊張をほぐすため、ゲームで体を動かしながら、アイスブレイクに取り組みました。研修員たちは、ペアやグループでの活動を何度も体験する中で、次第に緊張もほぐれ、気づけば自然とハイタッチをしたり、一緒に笑い転げたりする姿が見受けられました。お互いに夢中で作戦を話し合っているうちに、日本語、スペイン語、英語を使い分けながら、言語の異なるこの仲間たちとの効果的なコミュニケーション方法についても自ずと学び取っていました。たくさんの活動を通じ、仲間としての意識が芽生え、今後のチームワークづくりのヒントも得ることができたようでした。

研修員の感想から



- ◇ みんなの名前や出身地、好きなものについても詳しく知ることができました。みんなと作戦をたてる方法も学びました。
- ◇ みんなと仲良くなり、話をするために行ったゲームにはとても驚きました。みんなを知るためのアクティビティに参加できて、本当によい気分でした。友達のこと、新しい友情の作り方など、たくさんのことを学びました。
- ◇ 今日のアクティビティはとても楽しかったし、グループとしての団結力を高めることができたと思います。今後はもっと団結力を高めて、最終的には新しい友情を築き、グループとしてお互いの弱点を助け合うことができればと思います。
- ◇ 今日、私は新しい友達を作り、他の人たちともっと会話ができたと感じました。他の国の文化についても、もっと知ることができ、みんなの名前も覚えたと、とても嬉しいです。また、他の人の文化を知ったことで、私たちは同じではないこと、そして他の人と自分のことを分かち合わなければならないことも理解することができました。

過去から現代、そして未来へ



2023年6月22日

納得！日本のお菓子がおいしい理由

研修員たちにも馴染みのあるお菓子を作っている森永製菓に工場見学へ行きました。「MORIUM 鶴見工場」には、たくさんの機械があり、大好きなお菓子がどのように作られているのか、美味しさの秘密やファンを増やす会社の工夫等、学ぶことができました。



日本を支えてきたモノづくりと新しい未来を創造する技術の力

東芝未来科学館では、体験型の展示とわかりやすいデモンストラーションを通して、日本のモノづくりの歴史から、現代の日本人の暮らしを支えるテクノロジーまで、たくさんの驚きと発見を体験することができました。社会のニーズにこたえ、未来に変化をもたらすために、新しいテクノロジーが日々、研究・開発されていることも知り、未来の生活も想像することができました。



古民家から見えてきた生活の知恵

今のような電気やインターネットがなかった時代、日本人がどのような生活をしていたのか、古民家を見て昔の人々の暮らしを想像しました。ねじや接着剤を使わない木材は修理したり、解体したりしながら長く使用できることや、風通しの良い家の造りで暑さを和らげられることなど、自然とともに生きる暮らしの知恵も発見しました。



研修員の振り返りから

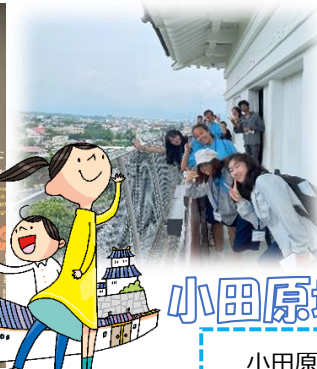
- ◇ よく食べているお菓子の工場に行けてうれしかったです。ゼラチンを細かくしたり、独自の味を作り出していてすごいと思いました。
- ◇ 面白いCMを作ってファンを増やしたり、商品の品質についてとても気にしていることがわかりました。
- ◇ お菓子の作り方と歴史を知りました。長い作業だと思いました。前はお菓子が高いと思っていたけれど、今は慎重にお菓子を作っていることを知ったので、安いと思うようになりました。
- ◇ 森永工場の社員には無料でお菓子がもらえるシステムを作ったら、良いボーナスになると思うし、工場に仕事にくるモチベーションにもなると思います。作りすぎたお菓子を捨ててしまうことを避けることもできると思います。
- ◇ 日本のからくりにはびっくりしました。まだ電気がない時代に作られたものでもちゃんとした仕組みがあり驚きました。
- ◇ 未来科学館では理科で勉強したことがたくさん身近なところにあることを知れて面白かったです。特にリニアモーターカーの仕組みについて授業で聞いていたけれど実際に見たことがなかったので、新しい発見がありびっくりしました。
- ◇ 科学館では興味深いものがたくさんあり、学校へ戻ったらもっと集中して授業を受けたいと思いました。
- ◇ 理科の授業で習ったことがいろいろとあったから楽しかったです。からくり人形が回転したこともすごかった！昔の人の知恵と工夫は本当にすごいと思ったし、そこから今の技術を作ったこともすごいと思いました。
- ◇ 昔の建物もとても造りにこだわっていることを感じました。
- ◇ 昔の家では、ねじを使わずに、木だけを使ってあんなに素敵な家を作っていたことに感動しました。
- ◇ 民家園の雰囲気はとても良かったです。昔の家が今も残っていることがすごいと思いました。昔の家は風通しが良くて、きれいでした。
- ◇ 古民家の見学は、私に安らぎを与えてくれたし、その構造を見るのが大好きでした。
- ◇ 現代の技術がない生活では、人々は勉強熱心でなければならないでしょう。道に迷わないようにいろいろな場所に地図を作らなければならなかったらと思うました。

小田原・箱根へ日帰り旅行



2023年6月26日

小田原・箱根を巡る研修旅行に出かけた研修員たち。バス旅行にワクワクが止まりません。バスの運転手さんのご厚意で、バスの中ではカラオケも満喫！みんなの楽しそうな歌声がバスの中に響きました。



小田原城

箱根関所・寄木細工体験

くねくねした山道をバスで登り到着した箱根の関所では、豊富な木材が手に入る箱根の特色を生かした伝統工芸、寄木細工を体験しました。異なる木材パーツを思い思いに組み合わせ、研修員の個性あふれるコースターが出来上がりました。また、工房では江戸時代に貴重品をしまうために使われていたというパズル要素を含んだ「からくり箱」や、からくり箱から発展した仕掛けのある家具についても紹介してもらい、その巧みな仕掛けに一同興味津々でした。箱根の関所では、江戸の町を守るための仕組みについて学んだり、芦ノ湖や街道を見渡せる遠見番所から箱根の美しい景色を眺めたりしました。

小田原城では、ガイドを担当した研修員たちが、小田原城の見所や、お城の役割について、ユーモアも交えて、丁寧に説明をしてくれました。とてもわかりやすい説明をしてくれたガイドさんたちのおかげで、興味をもって見学をすることができました。

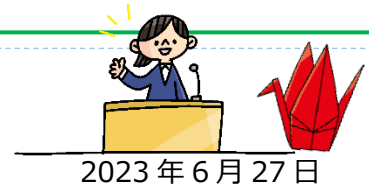


研修員の振り返りから

- ◇ 小田原城のあまりの大きさに目を丸くしました。日本にあるお城の中で大きさが7番目だと聞いた時には、びっくりしました。
- ◇ 城の意味が思っていた意味と違ったことを知りました。お殿様が住む場所ではなく、大事な町を守る所だということがわかりました。お城の仕掛けも、よく考えられていて驚きました。
- ◇ 小田原城の入り口を見た時に、少し小さいなと思いましたが、そこはまだお城の始まりでもなく、中に入っていくと敵が入ってこないための工夫や色々なものがあり、本当に勉強になりました。昔の人が使っていた化粧ボックスが博物館にあってびっくりしました。侍の博物館も興味深かったです。
- ◇ 日本のお城の仕組みがすごかったです。何回も修理してお城のメンテナンスをしているのがすごく偉いと思いました。

- ◇ 小田原城のガイド係の案内がすごく面白かった。武具や歴史館もあって見て楽しかった。剣道をやっているの、こうやって武具ができていたのだとわかり面白かったです。
- ◇ 今日は小田原城のツアーガイドを務めました。意外に緊張しなかったし、スムーズにできました。天守閣が面白かったので、もっとゆっくり見たかったです。
- ◇ 着物の柄を装飾に使ったり、大切なものを守る二重構造の箱について知りました。箱を開けるためのパターンを覚えたいくなりました。
- ◇ おみやげに寄木細工を買いたかったです。からくり箱はすごく高くてびっくりしました。
- ◇ 寄木細工は本当に面白かったです。からくり箱がすごい。デザイナーにあこがれます。

スピーチコンテストに参加！

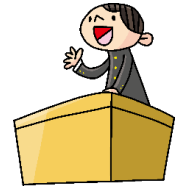


2023年6月27日

6月27日（火）は「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」の中区審査会が JICA 横浜にて行われました。中区の各中学校の代表生徒に混じり、JICA 日系社会次世代育成研修からはメキシコの山音くんがゲストスピーカーとして登場しました。たくさんの人に注目されて、緊張したと思いますが、仲間たちが応援するなか、堂々とスピーチを発表することができた山音くん。とても立派でした。

最後には特別賞もいただきました！

審査会終了後には、「中区の中学生にスピーチの感想を伝えたい」「代表になった中学生におめでとうと言いたい」と、研修員から中学生に積極的に声をかける場面も見られました。



研修員の振り返りから



- ◇ わたしは中学生のスピーチを聞いた後、聞きたいことがたくさんありました。「このスピーチを準備するためにどれだけ時間がかかりましたか」「この場に立って、どんな気持ちを感じましたか」「日本の中学校は楽しいですか」などです。
- ◇ 中学生で平和についてこんなに深いイメージ（メッセージ）を持っていることにびっくりしました。言っていた言葉に感動しました。
- ◇ 実際に日本の中学生が平和について何を思っているのか、すごく気になっていたので、いい機会をもらえて嬉しかったです。私が疑問に思っていたのは、日本は貧困とかあまり問題がないからどう考えているのだろうと思っていたので、いろいろな話を聞いて良かったです。
- ◇ 山音くんが参加して良く頑張っていました！
- ◇ みんなの発表がすごかったです。でも、自分の学校と違うところも見つけました。自分の学校ではスピーチの時に、身振り手振りをしなくてはいけなかったことです。文化の違いだなと思いました。
- ◇ スピーチはみんなすごく良くできたと思います。日本の中学校に行くのが楽しみです。

研修員に質問！

日本の中学生に聞いてみたいこと

- ・日本の楽しい場所は？
- ・海外に行くとしたら、どこに行きたい？
- ・学校生活、どんなことが好き？
- ・将来、何したい？
- ・休みの日には何を？どこへ行く？
- ・趣味は何？
- ・勉強法を教えて？
- ・今の流行りは？
- ・自分の国の第一印象は？どんな国だと思う？
- ・いちばん好きな漢字は？
- ・1日に何時間くらい勉強しているの？
- ・一番好きな行事は？
- ・部活は楽しい？どんなことをするの？
- ・学校の後は、何を？
- ・アニメ・マンガは好き？どんなものが好き？
- ・どうして日本の学校はそんなに厳しいの？
- ・校則について何か変えたいことはある？
- ・いちばん難しい科目は何？
- ・横浜の好きな場所はどこ？
- ・学校でのアクセサリー禁止について、どう思っている？



ふろしき文化

ようこそ、先輩！



2023年6月28日

日本文化の授業では、ふろしきについて学習しました。ふろしきの先生は、1枚の布から、かばんや帽子、マスクなど、自由自在に様々なアイテムを作り出します。使い道を変えられる再利用可能なふろしきの良さを知りました。



日本で勉強している日系留学生と、日本の大学院を卒業し、今は日本で働いている日系の先輩を迎えて、日本での留学体験についてお話を聞きました。先輩と一緒に理想とする将来の自分像について思い描いたことで、将来、日本で勉強する夢が広がったという研修員もいました。

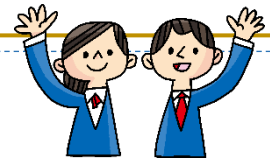
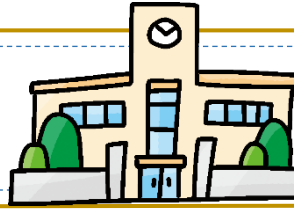


研修員の振り返りから

- ◇ ふろしきを工夫して使い方を自分で探すのがとても面白いと思いました。日本の文化では、普通のもので何でも最大限に使うことを大切に思っていることに気づくことができました。簡単な結び方で色々なものを作れることにびっくりしました。
- ◇ ふろしきのことは知っていましたが、結び方はほとんど知りませんでした。いろいろな結び方を学んだので、これからの生活にたくさんいかせたいと思います。ふろしきを世界中に広めるとプラスチックゴミが減るので、もっとたくさんの方がふろしきを使ってくれるように頑張ります。
- ◇ 上手に使いえば、再利用可能で信頼できる方法だったと思います。
- ◇ ふろしきの結び方を練習しました。バッグや帽子、お面など、いろいろなものを作るために。使い方は無限大です。だから特定の用途がないことがわかりました。

- ◇ 自分の将来について考えて、みんなの考えも聞きました。みんなが将来何の仕事をしたいのか、どんな夢を目指したいのか、もう知っていて、すごいなと思いました。それぞれが違う考えを持っていることもわかりました。「私もちゃんと将来のことを考えないといけない」と思いました。
- ◇ 最後に各文化をポスターにまとめることをして、みんながすごくいっぱいかいていて、とてもいいなと思いました。
- ◇ 先輩の話はとても良かった。自分も将来、同じ道を歩みそうだなと思いました。勉強をがんばらなければと思いました。

中学校体験入学



2023年6月29日～30日

横浜市中区にある中学校にご協力をいただき、6月29日は本牧中学校と港中学校、6月30日は仲尾台中学校と横浜吉田中学校を訪問し、学校見学や授業を体験させていただきました。日本の中学生に混ざって、クラスの中に入れてもらい、同年代の生徒たちと交流したり、自国の文化を紹介したりと、たくさんの挑戦ができた二日間でした。どのように日本の中学生が勉強しているのか、学校生活を過ごしているのか、実際に体験させてもらったことで、自国と日本の学校の違いやそれぞれの特徴、両国それぞれの良さにも気づくことができました。登校時には緊張した表情を見せていた研修員でしたが、どの学校でも温かく迎え入れていただき、出会った中学生からたくさんのことを学ぶことができました。



研修員に質問！

友だちできたよ！どんなことを話した？

- ・自分の国のこと
- ・年齢
- ・身長
- ・食べ物
- ・スポーツ
- ・学校
- ・ルーツ



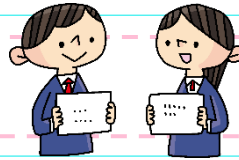
- ・自分たちの生活について
- ・お互いの好きなこと、趣味のこと
- ・話せる言語のこと、英語やスペイン語について
- ・日本の有名なゲーム
- ・行ったことのない場所、やったことのないことについて



- ・流行について
- ・買ったグッズの話や推しについて
- ・好きな音楽、K-popのこと
- ・恋愛、恋バナ
- ・男の子のこと、かわいい女の子のこと
- ・変な話！
- ・ふざけたこと
- ・アニメ、ハリーポッター



体験入学を終えて…



2023年6月29日～30日



研修員の振り返りから

- ◇ 港中学校へ行き、セレモニーからもクラスからもとても温かいウェルカムを受けました。みんなとても優しく、たくさん話しかけてくれました。授業も楽しかったし、自己紹介もよくできたと思います。日本の学校とカナダの学校の違いもいろいろ見つけることができました。
- ◇ 今まで日本の学校を体験したいと思っていたので、今日はとても嬉しかったです。たくさんの友達と思い出ができて、今日のことは一生忘れません。
- ◇ 部活は楽しそうだし、好きなことを探せそうだと思います。友達を作ったり、新しい出会いができると思います。
- ◇ 心に残っているのは体育館です。アニメみたいな体育館で感動しました。でもすごく暑かったです。教室もアニメみただったのでびっくりしました。夢が叶ったようです。
- ◇ 日本の制服は服を考える必要がないので好きです。一方でカナダの学校の自由がとても好きです。
- ◇ 本物の日本の学校を見学できてよかったです。本牧中の校舎はすごく大きかったです。今まで見た学校よりずっと広かったです。音楽室とか、美術室とか、色々な部屋があって驚きました。授業も中学生の時に、この授業を受けたかったです。
- ◇ 国のプレゼンテーションでは緊張したけど、メキシコのクイズでみんな笑ってくれたので嬉しかったです。クラスは2年1組で、先生も面白いし、友達も良かったです。生徒はみんな1人1台パソコンを持っていて、便利だし、楽しそうだから自分の学校にも取り入れて欲しいと思いました。
- ◇ 初めは緊張しましたが、そのあとはみんなと交流できました。部活は体験したかったけれど、見るだけだったので我慢しました。日本の学校はメキシコの学校と違って、廊下や教室がきれいで整っていて、すごく良いと思います。お菓子やスマートフォン、フェイスメイクなどを持って来てはいけないという日本の学校のルールもメキシコと違ってすごく良いと思います。今日は本牧中に1日だけでしたが、今度はもうちょっと長く体験したいです。
- ◇ 英語しか話せないフリをしていたとき、みんな頑張って英語を話してくれたので嬉しかったです。楽しくするためにいろんな工夫を考えたり、質問を聞いたりしてくれました。学んだことは、誰かが話しかけてくれるのを待つよりも、自分でアタックした方が友達を作れるということです。
- ◇ 横浜吉田中学校にはたくさんピアノがありました。私の学校にもピアノがたくさんあります。日本の学校のタダの昼食が好きです。カナダの学校のいい所は、1日中一つのクラスにいないところが気に入っています。
- ◇ 日本の学校は私の学校とは違います。体育館や道場があります。メキシコでは上履きも使っていません。メキシコでも欲しいのは部活動です。アニメでは部活動がたくさん出てきます。青春みたいで、すごくうらやましいです。
- ◇ 学校に行くにはたくさんの階段があっけつかったです。仲尾台中の生徒たちは毎日この階段を登ってすごいなと感心しました。横浜吉田中学校では数学の授業に参加しました。メキシコでは文字式のところと平方根しかしていなくて、やっていないところだったけれど、考えて1枚プリントを終わらせることができ嬉しかったです。休み時間は、自分から隣の子に話しかけてみたら友達になれました。隣の子は中国の子でした！
- ◇ クラスがとても賑やかでした。みんな、人に気を配る人で良かったです。午後の横浜吉田中学校ではみんな静かで礼儀正しかったです。特に驚いたのは、メキシコと違って、先生の教え方、説明の仕方がすごく上手だったと思いました。
- ◇ 休み時間の日本の中学校は、みんなが他の人と交流するために教室を出てきたので、ドミニカ共和国の学校と似ていると思いました。中学校で気に入ったのは、生徒たちがとてもフレンドリーで礼儀正しいことです。
- ◇ 今日は午前中は仲尾台中学校へ行って、校長先生に言われたように英語しか話せないふりをしばらくしました。難しくて、少し罪悪感もありましたが、とても面白かったです。ドッキリ（種明かし）ではじめていいリアクションがもらえました。

ホストファミリーとの一日！



2023年7月1日

ホストファミリーのみなさんは、4年ぶりに再開したこのプログラムを心待ちにしてくれていました。今年はまだホームステイは実現できませんでしたが、ホストファミリーのみなさんは研修員のために楽しい計画を立ててくれました。当日の朝は、あいにく、土砂降りのお天気となってしまう、計画を変更せざるを得ないファミリーも多かったようですが、お家で一緒に料理をしたり、地域の集まりに参加したり、ドライブをしたりと、研修員にとってはどれも貴重な日本の生活体験となりました。終了時には、あちこちでホストファミリーとのお別れを惜しむ研修員たちの姿があり、涙でお別れする研修員も。1日という短い時間にもかかわらず、こんなにも心に残る交流をしていただいた、ホストファミリーのみなさん、ありがとうございました！



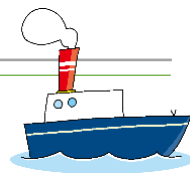
- ◇ もうずっとホストファミリーの家でいたかったです。子どもの通っている中学校へ行き、吹奏楽部の体験をさせてもらいました。そのあと、どら焼きを作ったり、漫画を読んだり、釣りに行ったりしました。一緒に楽器の演奏をしたり、USBを持って行ったので、自分のプレゼンテーションもしました。
- ◇ うまく話せなかったらどうしようと考えていましたが、ホストファミリーは出会った時にすぐにハグをしてくれて、私の文化に触れてくれようとしていると思い衝撃的でした。ヒッポファミリークラブにも行き、活動している人たちの思いが伝わり、色々な人とつながれて、世界のことについても知れるので、素晴らしい団体だなと思いました。
- ◇ ホストファミリーがとても好きだったので、彼らにさよならを言いたくありませんでした。
- ◇ 渋谷と羽田空港に連れて行ってもらいました。家族に別れを告げる時、大泣きました。
- ◇ ホストファミリーとみみちゃん（いぬ）と会いました。メロンパンを買いに行ったり、鎌倉に行ったりしました。本当に楽しかったので、今日は良い日でした。
- ◇ ホストファミリーは全く異なる文化を持っています。ヒッポではどのようにして様々な言語を学んだのか説明してくれました。私はドミニカのきれいなビーチや日系の歴史についてみんなに話しました。
- ◇ プレゼンテーションをして、私はドミニカ共和国出身で、母はブラジル日系人であること、父はドミニカの日系人であること、私の家族は高知県出身であることも話しました。ホストファミリーの男の子とはいっしょにゲームもしました。
- ◇ 学校、家族、友人、ベネズエラの好きなものを見せました。ホストファミリーはベネズエラの風景を気に入ってくれました。私たちはスーパーに行きました。私はたこ焼きを作りました。わたしは彼らがとても大好きです。また会いに戻ってきたいです。
- ◇ 日本の家族と家族の友達とはパーティーをしました。私は焼肉とチョコレートと甘いものを食べました。家族と友達とは一緒に踊ったり、ゲームで遊んだりしました。
- ◇ 浴衣を着せてもらったり、1歳の子もいて可愛かったです。銭湯にも連れて行ってもらいました。また会いたいです。

家族のルーツを探って

2023年7月3日、5日



移住学習



移住学習ではクイズやフォトランゲージという写真資料を使ったグループ活動を通して、日本人の海外移住に触れ、当時の移住先国での生活や体験について学習しました。その後、JICA 横浜2階にある海外移住資料館を見学し、家族や自身のルーツとなる地域について調べるとともに、移住者によって移住先国に持ち込まれた日本の文化・価値についても、宝探しをしながら見つけていきました。展示資料を通して、当時の日本人が移住先で体験したことを想像し、祖国である日本や子孫のため、また移住先国の発展のために貢献してきた移住者への敬意を深めました。



ララ物資の記念碑

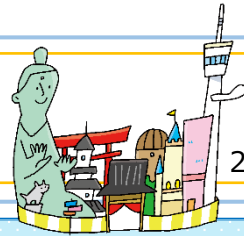
第二次世界大戦後の日本では、みんなが食べるものや着るものに困っていました。そんな日本人たちにララというグループから食べ物や服、薬、靴や文房具などが届きました。ララは Licensed Agencies for Relief in Asia を短くした言い方です。アメリカ人をはじめ、移住した日系人が1946年から1952年までララ物資を送ってくれました。ララからのおくりものが最初に届いた横浜の港にはララの記念碑があります。



研修員の振り返りから

- ◇ 戦争を避けるために移住したのではないかと思います。家族や友達を置いていく覚悟をして考えたことのないような人生を送ることになり、そして、もし友達が外国にいて困っていたら、自分も友だちを助けたいと思うだろうと考えました。
- ◇ 戦後広島はボロボロになったから、移住した人が多いと思います。移住の準備をする時には、言葉が話せるように授業があったそうです。日本人は畑で使う便利な道具などを紹介して、移住した国にいい影響を与えたことを知りました。
- ◇ 移住する前の準備の動画が面白かったです。たくさん準備があったことを知り、興味深かったです。資料館もすごくリアルでびっくりしました。
- ◇ ララの石碑にある詩が印象的で、日系人と日本人の関わりはとても大切だと考えました。
- ◇ 海外移住資料館のアクティビティは全部自分で解きました。100年前に移住した家族のことをもっと習いました。
- ◇ 移住学習はクイズ方式で楽しかったです。資料館では昔の新聞が面白かったです。
- ◇ 日本では失業や貧困が多かったため、日本人は新たなスタートを切るために海外に移住しました。また、船上では子供たちに授業をしたり、運動会などを行ったことを知りました。
- ◇ 横浜には色々な場所に移住の歴史がつまっているなと思いました。昔の写真と比べると横浜はだいぶ前から変わっていたことにびっくりしました。港に着いた荷物を色々な場所に動かすための電車の線路が残っていることで昔と変わらない部分もあることに気がつきました。

鎌倉で触れる日本の歴史



2023年7月4日

小田原・箱根に続き、鎌倉でも研修員たちがガイドとなり大仏や銭洗弁財天について紹介しました。研修員たちはその場所まつわる歴史やエピソードなどを紹介しあったことで、歴史や文化にも興味を持つことができました。



銭洗弁財天

- ◇ 銭洗弁財天では、お金を洗い、おみくじをして大吉が出ました。洗ったお金をいいことに使いたいと思います。
- ◇ 銭洗弁財天では面白い体験をし、お金が戻ってくるようがんばりました。神社のマナーはよく知らなかったのですが、しっかりとわかって良かったです。
- ◇ 鎌倉は周りの自然もすごくきれいだった。銭洗弁財天までの道はすごく遠くて疲れたけど、雰囲気すごく好きだった。5円がご縁という意味があることを知り、日本語はすごいと思った。
- ◇ 銭洗弁財天には奇跡の泉があり、訪れる人々に幸福をもたらします。

鎌倉の大仏



- ◇ 大仏の場所には、仏教の人たちだけでなくいろいろな宗教の人が来ていました。違う宗教に興味をもつのはおかしいことじゃないと思いました。すごく大きい大仏は時間をかけて作られたと思うし、その大仏をすごく信じていたんだと思いました。
- ◇ 大仏の中に入れると思っていなかったのですが、入れて良かったです。大仏は大きくて、すごくきれいで圧倒されました。
- ◇ 13世紀に建てられて、今まで保存できていることがすごいと思いました。
- ◇ 大仏の頭にいろんな粒々があっぴょくりしました。
- ◇ 大仏のあまりの大きさに目を丸くしました。中が空洞になっていることにも驚きました。
- ◇ 今日は僕のグループが鎌倉のガイドをしました。大仏について調べたことを発表しました。



鶴岡八幡宮



- ◇ 神社ではちゃんとお参りをしないと、はずかしいです。だからみんなは神社であまり大きな声で話さなかったし、ルールを守りました。鳥居はバリアの役割があったことも知りました。お守りには種類がいっぱいあってよく考えられていると思いました。ペットのお守りも売っていました。
- ◇ 私が見ることができた神社の作法は、2回お辞儀をし、2回拍手をし、願いをし、最後にお辞儀をすることです。
- ◇ 鶴岡八幡宮はきれいで、言葉を失いました。たくさん歩いて疲れましたが、日本に来たら行きたかった場所へ行けたので、嬉しくてワクワクしました。

研修員に質問！

おみやげ買ったよ！トップ5

1. お菓子 (9票)
2. アニメ、キャラクターグッズ (8票)



3. キーホルダー (5票)
4. マグネット (4票)
5. おまもり、Tシャツや衣服 (3票)



2023年7月5日

未来の地球、理想の世界



研修員の振り返りから

今よりもっと良い未来、思い描く理想の世界を築いていくために、どのような知識や考え方が必要なのでしょう？研修員たちは自分たちにもできるちょっとした工夫や、自国の地域・社会でも広めたいと思う考え方などを探しに、不用品の収集やリサイクル・リユース・アップサイクル事業に力を入れている武松商事のエコクルファクトリーへ出かけました。

日本のゴミ問題への取り組みについて学習した後、実際に不用品になった布を使用したかばん作りも体験しました。初めての手作りに苦戦した研修員もいましたが、出来上がった手作りのかばんには愛着が生まれたようでした。



- ◇ 環境学習では日本が14種類にゴミが分けられていることを知って、ある意味とてもわかりやすくていいなと思いました。でも覚えるのが大変そうです。
- ◇ 日本人がその捨て方を守っていることにびっくりしました。カナダはたった3つの分け方なのに、ちゃんと分けていないからです。
- ◇ 日本は昔、ゴミだらけだったことを知りました。今と昔はすごく違います。だから、ここまで変化したことにびっくりしました。努力したと思います。たくさんの方の協力で変化ができたと思います。だから日本人は自分の国のきれいさを誇りに思っていると思います。今、日本はゴミだらけにしない工夫を学んでいます。どうやって世界と日本をきれいにするか考えながら、ゴミをアップサイクルすることまで深く考えているから、日本はいい変化をしたと思います。
- ◇ 無駄を出さず、あらゆるものを再利用することがいかに賢明であるかを考えました。
- ◇ 環境学習は日本に来て勉強したかったことなので、色々知れて良かったです。分別文化を少しでもメキシコに発信していきたいです。
- ◇ みんなでエコクルファクトリーという工場に行って、そこはあるものをもう一度使ったり、捨てたものをリユースしたり、リサイクルしたりする場所でした。そのあと、実際に布をつかってふくろを作りました。
- ◇ 私たちはリサイクル可能な材料から製品を製造している工場に行った。作ったバッグがとても気に入ったので、夕食を食べに行くのにも使いました。
- ◇ 不必要なものすべてが使い捨てというわけではないと思いました。財布、ケース、箱など、さまざまな手工芸品を作るためにリサイクルすることができます。

研修員に質問！

日本と居住国、どんなところが違う？

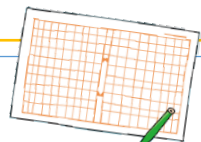
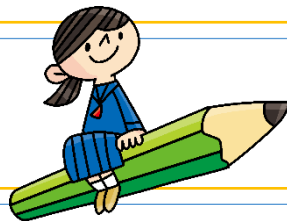
1. 道がきれい！清潔なところ (10票)
2. いろいろなものがメンテナンスされている、整理されている (5票)
3. ルール（学校のルール、全体的なルール）、マナーが徹底されている (3票)
3. リサイクルや分別をしっかりしているところ (3票)
3. 全部が違う！ (3票)
6. 文化 (2票)
6. 食べ物、朝ごはんにごはんを食べるところ (2票)
6. 気候 (2票)

他には…

- ・学校で「いただきます」をみんなで言うところ（自分の国では言わない）
- ・日本は外にゴミ箱が少ない
- ・カスタマーサービス
- ・日本人は親切、気配りがある、敬意がある
- ・人の見た目 ・音楽 ・色が違う
- ・日本の教育は充実している

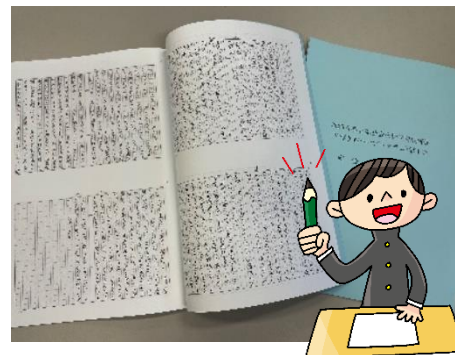


想いを言葉にのせて



2023年7月6日

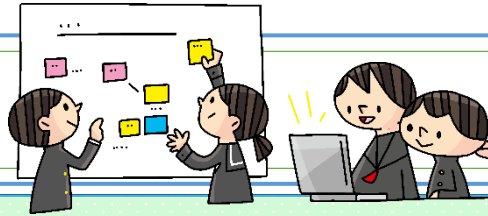
約3週間にわたる日本での研修で、研修員たちが何を感じ、考えたのか、またどのような体験を通じて心が動いたのか、この3週間での学びや心に残ったことについて作文にまとめました。この研修でできたたくさんの思い出の中からいちばん伝えたいテーマを決め、日本語でまとめることは、気が遠くなるような作業でしたが、1日かけてようやく全員が作文を仕上げることができました。この作文は研修員が悩み苦しみながらも、今持っている日本語の力や思考力を振り絞ってまとめた結晶です。



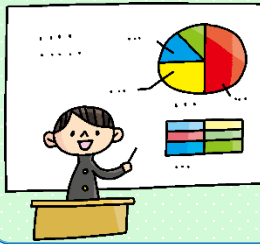
研修員の作文から

- ◇ 日本には厳しいルールがたくさんあります。そして日本人はそれを守っています。メキシコは違います。厳しいルールがないから日本より危険です。ルールがあっても守りません。私はこの態度を自分の国に持ち込んでより良い、安全な国にしたいと考えています。大きな変化は小さな一歩から始まると思います。日本はとても美しく安全な場所です。メキシコも安全で美しくなってほしいです。小さな変化を起こすことでより良い国をつくれると信じています。みんなの助けがあれば達成することができます。
- ◇ 「私は日本人？それともメキシコ人？」私は小さい頃からこの疑問がよく頭の中に浮かびます。この二週間で色々な日系人、他国人、ホストファミリーとの関わりで自分の物の見方、視野が広がりました。これらの経験から他国人とのコミュニケーションの取り方、友だちの作り方、自分と同じルーツを持っている人との出会いを知れて、私はこのままの自分でいいんだ、私は日系人だということに気づくことができました。どちらかの国の人ではなく、メキシコと日本両方を持っています。この私の個性を生かして、自分の持っているものを世界に共有してより良い世界を作っていきます。
- ◇ 全体を通して一番驚いたのは、学校での経験でした。テレビドラマに出てくるような静かな生徒がいる教室を想像していましたが、正反対でした。私がいつも日本の中学校について紹介されていた行動はもっと穏やかなものだったので、驚きました。また、生徒たちが先生たちととてもオープンな関係にあることにも驚きました。一方、課題の時間になると、全員がチームとして取り組み、先生に敬意を払うという事実も気に入りました。自分の国で紹介されていることがすべて真実ではないことを学びました。
- ◇ ドミニカ共和国と日本では、学校に関して多くの違いがあることに気がつきました。三つの異なる中学校に行ったことで、私の国の学校がより良い方向に大きく変わる可能性があることに気がつきました。たとえば、組織、清潔さ、時間厳守、態度などです。この研修の前は自分の学校は完璧だと思っていましたが、これらの日本の学校は非常に良く、私の国の学校はそこまでよくないこともわかりました。私は自分の学校をより良くする可能性を持って、ドミニカ共和国に帰ります。
- ◇ 私の学校では一クラスが十人から十五人程度だ。日本は一クラスに三十人以上。授業では一人一台、パソコンの普及があり、進め方が違う。一クラスの人数が多いこと、少ないこと、いいことも悪いこともあると思った。例えば、少ない人数であれば、一人一人の意見がより多く聞ける。日本の学校では、一人一人の意見を聞きやすくするために、パソコンを使った授業をして、それぞれの状況に応じていると思った。私は一人一台パソコンを持っている方が便利だし、これからのネット社会では必要な知識だと思う。だからこの経験を活かして今の学校に伝えたい。
- ◇ 日本はもっとテクノロジーが発展した国です。でも日本人は箱根や小田原のような歴史的な場所や歴史も残しています。横浜の高いビルを見ました。それから古い城も見ました。日本の発展力を見て、日本人の努力のおかげで今の日本を見ることができました。
- ◇ 1613年に造られた鶴岡八幡宮が今もきれいな状態であるのは、たくさんの人が鎌倉の魅力を伝えたいと思っているからだと思う。日本は地震などが多い国だ。鶴岡八幡宮も火災の被害にあったり、崩れたり被害を受けた。それでも自分たちの鎌倉、鶴岡八幡宮を建て直して、これからも後世に受け継いでいこうとしている人たちは本当にすごいと思った。
- ◇ 私は自分の国では、知っている環境でしか動きませんでした。とても閉鎖的な考え方をしていました。このアイスブレイクを通して私の考えは180度変わりました。私はもっとオープンになり、まわりを受け入れることができるようになりました。これからは新しい環境に慣れると思います。
- ◇ 僕の国では知らない人と話すとき、ちょっと不安を感じたり、怖くなることがあります。アイスブレイクは人と仲良くなるために大事な活動だと思います。この活動で僕は、新しい友達をつくるために失うものは何もないので、恐怖や緊張をなくし、恐れることなくみんなに話しかけた方がいいことを学びました。

研修員報告会



2023年7月10日



作文に引き続き、研修員には最後にもう一つ、大きな課題がありました。報告会での発表です。日本でどのようなことを学び、何を感じていたのか、研修の成果をグループで発表しました。グループ発表の最後には、研修員一人ひとりが帰国後、この経験をどのように活かし行動していきたいのか、将来の自分との約束事についても発表しました。



発表スライドの準備もがんばりました！



ゴリラゲームとチームワーク

3か国語で作戦を練って最高記録を取りました！



鎌倉の大仏

鎌倉の大仏は彫から作っている像です。神奈川県鎌倉市の高德院にあります。



頭の高さは2.35m

着いたときに大きさにびっくりしました。きれいで古いに見えました

台座から頭までの全体の重さは93トンで高さは13.35m

日本で学ぼう

01 私たちの国と日本の文化

02 みんなの夢



移住学習



博

ジャック、クワン、キングよこはまには「ジャック」「クワン」「キング」とよばれる3つの国があります。「ジャック」はじつさいにはいかにいふかたの国です。1917年に作られた「クワン」はほんまにうけるらうしやと55歳にならぬまじやうした。「キング」はいいききあしうたかながけんちようしやうて、1998年に作られました。3のうまをうまじやうたわがいにとまかええとしいいいたてがえんます。



さおり

日本人いあんなが多かった国ブラジル(241,855)1908年、ペル(13,072)1898年、メキシコ(14,496)1897年、いじやうよりよいせいかつをもとめて、せんそからのがれ、ひんこんからのがれるためにいきました。



細人

これはラララ賞(ぶっし)の記念碑(きねんひ)です。せんそうで食べものがなくなつてこまっている日本人をたすけるために、日本人(にっけいじん)がいろいろなものをばりましました。この記念碑(きねんひ)はそのあたたかい心(こころ)をわすれないために、いじやうものだと思ひます。

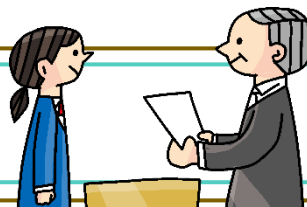
横浜の中学校の良いところ

横浜の中学校の教室はすごく綺麗で、整理されていましてそして特に驚いたのは生徒たちが掃除することです。メキシコだと掃除人がいて掃除はしませんだからすごく感心しました。教室を汚すのは生徒たちだから生徒たちが掃除するのは当然だと僕たちは思います。だからメキシコにも伝えていきたいです。

他にも先生の説明がメキシコと比べたら凄く分かりやすくして、理解しやすいです。声をはっきりして、具体的に説明してくれるところがメキシコの中学校の先生とちょっと違うところです。



研修修了！閉講式



2023年7月10日

閉講式では JICA の田中明彦理事長よりお話があり、研修員は日系社会の未来のリーダーとして、仲間と一緒に新しい世界を築いていってほしいと激励を受けました。また、中区の中学校を代表して港中学校の緒方浩臣校長先生よりご挨拶をいただき、緒方校長先生からは研修員たちへ感謝の気持ちを大切に、日本での体験について居住国に伝えていってほしいと言葉をいただきました。その後、この3週間の研修を無事修了したしるしに、田中理事長より研修員一人ひとりに修了証書が授与されました。

最後はメキシコの愛子さんとドミニカ共和国の博くんがこの研修までの道のりや研修での日々を振り返り、研修員の代表として、あいさつをしました。研修参加に対するそれぞれの思いや自身のルーツに関する学習、研修での様々な体験について述べ、最後には家族や、研修で出会ったみなさんへの感謝の気持ちで締めくくりました。



研修員代表あいさつ

2023年7月10日



博：日本語には「為せば成る」ということわざがあります。どんなことでもやろうと思って努力すれば、かならず実現できる、という意味です。ぼくたち 21 人が JICA の研修に合格して、日本へ来ることができたのは、一生懸命、頑張ったからだと思います。ぼくは 6 歳のときから日本語学校で勉強しています。おじいちゃんとおばあちゃんが日本人で、お母さんも日本語が上手なので、「博も頑張るのよ」と言われてきました。ぼくが一番の目標は JICA の研修で日本へ行くことでした。きっかけは、お母さんが 14 歳の時に研修で日本へ行った時の話をしてくれたことです。そして、日本という国を自分の目で見たかったからです。夢に向けて、たくさん勉強をしました。

愛子：私は 3 年前、この JICA の研修について知り、小さい頃からずっと国際協力についてとても興味があったので、このプログラムに応募しました。最終面接も終わり、結果を待つだけとなった頃、世界中でコロナウイルスが流行り始め、学校の授業もオンラインとなりました。JICA から研修プログラムの可否を知らされることもなく一年が過ぎました。その後 JICA のオンライン研修があることを知り、参加しました。画面上でしたが、お互いの国について紹介があったり、自己紹介をしたり、好きなもので話が盛り上がったりと本当に楽しいオンライン研修を過ごすことができました。それから 2 年経った今年の 1 月、JICA のプログラムを忘れていた頃、実際に日本で研修ができるという嬉しい知らせが入りました。

研修に行く前、父と祖母に私のルーツについて聞きました。私の祖先は、約 120 年前、榎本移民団の一員として、熊本の天草からメキシコのチアパス州アカコヤワに医者、歯医者として移住しました。アカコヤワはとても貧しいところだったそうで、治療費の代わりに米や野菜などを受け取っていたそうです。貧しい環境の中でも、皆で支え合ってきたそうです。祖先達のおかげで、私たちがこうして幸せな生活ができています。

博：この 3 週間、ぼくたちは仲良く勉強したり、遊んだりしました。日本のおいしい料理を食べたり、中学校を体験したり、日本のいろんなことに驚いたりもしました。ホストファミリーとの交流や、博物館や箱根、鎌倉の見学など、とても楽しい時間を過ごしました。すべてがあっという間でした。国へ帰ってもこの研修のこと、仲間や先生、そして日本で出会ったみんなのことを絶対に忘れません。

愛子：時には言語が通じず、辛い時や、文化の違いでいろんなことに苦戦しましたが、この 3 週間は本当に学びが多かったです。この研修を通して、自分の学んだことを自分の国の人に伝え、国と国の架け橋になればいいなと思います。

博：最後になりましたが、ぼくたちをいつも応援してくれる家族や先生、そしてこのすてきなチャンスを与えてくれた JICA や日系人協会のみなさまに感謝します。本当にありがとうございました。

愛子：ありがとうございました。

博：研修生のみんな、これからも日本語の勉強を続けて、同じ日系人として頑張ろう！

愛子：そして、いつかまたどこかで会いましょう！



感謝の気持ちをこめて



2023年7月10日

閉講式後の送別会では、お世話になった中学校の先生方やこの研修に関わってくださったたくさんの方々と帰国前の時間を惜しみつつ、これまでの感謝の気持ちを伝えました。

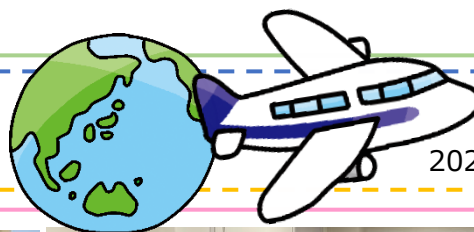
送別会の最後には感謝の気持ちを込めて研修員から歌をプレゼントしました。この日のために選んだ歌は「手紙～拝啓 15の君へ～」です。夜のミーティングや所外研修時の貸し切りバスの中で時間を見つけては全員で練習を重ねてきました。最後の歌のプレゼントはそんな全員の思い出も重なり、心を一つに発表することができました。

お世話になった皆さま、本当にありがとうございました。

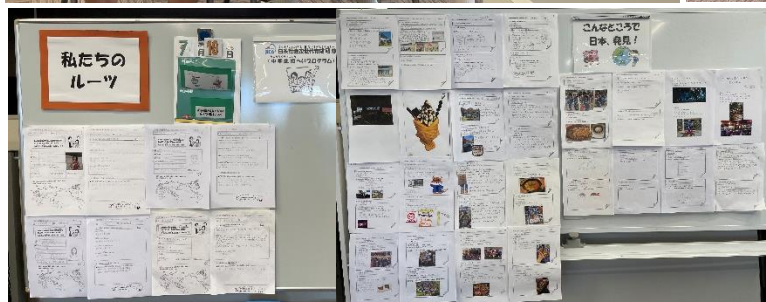
送別会



旅立ちのとき...



2023年7月12日



あっという間に過ぎた3週間。国も言葉も異なる研修員たちと過ごし、様々なことを体験した日本での研修は研修員一人ひとりにとって成長の時間となりました。

家族と離れ、地球の反対側までやってきた12~17歳の21名の研修員たちが日本で体験したのは、決して楽しいことばかりではありませんでした。研修員同士のコミュニケーションに立ちだかかった言葉の壁や日本語の難しさに直面したこと、意見のぶつかり合いから起こったケンカ、慣れない団体行動の難しさ、自立への挑戦など、一人ひとりが乗り越えた壁はたくさんありました。不安や心配からこぼれ落ちた涙、悔し涙もありましたが、最後に見せた涙は、21名の研修員がこの3週間、試行錯誤しながらもお互いに友情を育んできたからこそ流れた彼らの絆を感じさせる涙でした。

2023年度日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）第1陣は7月12日をもって修了となりましたが、21名の研修員が国を超えて結んだ絆、各々の努力によって獲得した成長が、今後の研修員たちの励ましとなり、自信とになっていくことでしょう。研修員たちが世界に広がる日系のネットワークをつなげ、世界を舞台にさらなる活躍をしてくれることを期待しています。



5. 研修員のひとこと感想

今回の研修は私を成長
 させ、たくさん学ばせていただきました。
 その上、一生忘れられない友達と思い出を作りました。
 なので、将来この糸至馬車を活かして世
 界に前向きな影響を与えたいと思っています。
 こんな気持ちでくれた研修を忘れま
 せん。またおきたら会いましょう。
 楽しかったです！ありがとう！

公美



この研修がなければたぶん
 さんありません。新しい人に出会って
 毎日が楽しい夢のようでした。
 今までありがとう
 ございました！！

結子



この研修に来ておかげで
 過ごすことができて
 おねと沢山話し、色々学
 びました。メキシコに帰ったら
 忘れられない内に家族や友達にこの
 楽しい研修の話を話してあげます。
 そして、もう一度この研修の場に会って
 別の国の人達と日本に来て
 思うことがたくさんあります。

山音



すごいけいけんでした。日本についてもっと
 まなびました。かぞとせいかいする
 感じが良かったです。
 ありがとうございます！！
 いま日本からはなれたくありません。

みつこ

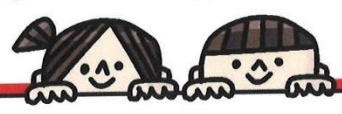
わたしの感想
 このけんしゅうではたかしのす
 ばらしいけんけんをいおせ
 いでをたつことかできま
 このけんしゅうをもついちど
 さいはけたいとこるから
 かなかていまあ
 かりんしアにあり
 がとごさいま
 きたあいまか。



きたあいまか。

このけんしゅうは、自分の国について
 多くを学ぶことができ、日本人
 がどの様にくらしているかを学ぶ
 ことができ、またたくさんの新しい
 友達かできたので、とても
 楽しかったです。

名前: シ青



この研修は私のものの
 見方を交えてくれました。
 色々なことを失敗しましたが、
 それは大きな成長のためのもの
 なので失敗を反省して、次に生か
 します！本当に素敵な人ばかり
 に出会えて、その素敵な人のマネ
 をして、ふりふり成長します！
 今まで私を支えてくれた
 みなさん！
 Aivi



このけんしゅうは、
 わたしのじんせいのかんが
 へ、ことなるくはや
 げんごのひとひと
 のこうりゆうをまなは
 せてくれた。

美奈



めっちゃ楽しかった！
 3週間くらいたったけど、た
 さんの経験かてまて！いろんな
 国の友達をつくることできた。
 ここててきた経験をXメソッドの
 友達や家族に伝えて...！それ
 またいつか、先生としてこの
 研修に参加したい。私たてま
 えてくれたみなさま、
 本当にありがとう
 美奈



このばんぐみかとてもまにいらした。
 じじんの化をもっとしたい
 ドミニカ共和国の友だちを
 つくりたいというおもいから
 きまされたが、じっさい、このプログラ
 ムは私のきこいを
 うわまわりました。
 摩也



ありがとうござい
 ました！ほんとにたの
 しかったです！
 美奈



かんぞう 木村

ちょっと日本語のスキルレベルを上げたいけど、日本人といふのはなせと、だいたい、ふたごっと思ひました。今は、ちょっとだけ日本語を上げたいけど、もっと日本語をべんきょうしたいと思ひます。それかかあさんのかぞくはざいん日本人で、もっとはなせることがいいと思ひます。五年でもいっしょけんめいこぼんをべんきょうせ、つづけたらいいと思ひます。

このけんしゅうは、とてもたのしかったです。とくにけんしゅうは、友だちとけんしゅうする時間をすごし、けんしゅうする楽しさを味わうことができました。

小笠原

とてもいい経験だと思ひます。そして今では日本をちがう目で見ています。

聖侍

今回のJICAの研修では、思い出になることをたくさん体験しました。私は、なかなかいって、日本の番組を見たり、歌を聞いているので、日本の事についてもよく知っていると思ひました。でも、こうやって日本来て、実際にそこで過ごすことで、私が知らない日本の文化をたくさん学ぶことができました。ぜひ、これからも私達のような日本人たちのために、このJICAの研修を続けてほしいと思ひます。

愛奈

このけんしゅうでたくさんのお話を聞きました。わたしは素晴らしい経験をすることができました。このよき思い出をいつまでも大切にしたいと思います。ありがとうございました。たのしかったです。

松本



この研修で日本の文化や日本語をもっと好きになって本当におかたと思います。世界中から来た、たくさんの方の友達に出会えて、色々な思い出を作ってくれて、すごくいい経験になりました。ありがとうございました。

4月

はや
このけんしゅうにくるまえはともだちができてよかったらどうしよう、としゃべって。でも日本について、アイスグループで、みんなをしたら、ともだちを作るのはかんたんでした。

ニター



このけんしゅうはとて素晴らしいから、友達たちを作った、日本のみんなかを、みんなに話した。たくさん日本語を話した。ありがとうございました。

♡♡♡



清美

この研修は一生忘れない。皆と仲良くなって、色々なことを学んで、すごくいい経験だった。

明夫



Sugoi Tanoshikata
すごい たのしかた
Tomodachi Keiken
ともだち けんけん
香織



6. 引率者の所感

コロンビア

メデジン日本文化センター「春のひなた」

羽田野 香里

「わー、ほんとに日本だ！」

「私たち日本にいる！」

成田空港を出て、バスを待つ間、そんなワクワクした声が聞こえてきました。

コロナ禍で3年ほど実施が見送られていたという日系中学生の研修が本年度ようやく再開するというのは、研修生、そのご家族、そして受け入れスタッフの皆様にとっても待ちに待った嬉しいお知らせだったと思います。

カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、ベネズエラ、そしてコロンビアからの21人の研修生。今回の研修は、ルーツや文化はもちろん、日本語のレベルも日本社会での経験もさらには言語もバラバラな中高生たちが24日間、同じ場所で寝泊まりし、共に学び、食事をし、時にはケンカをしたり、仲直りしたりしながら生活する、素晴らしい機会でした。また一緒に引率を担当したメキシコのクラウドディア先生、ドミニカ共和国の勝木先生、ベネズエラの悟先生は三人とも情熱と指導力のあるベテランの先生方で、研修生全体をしっかりと支えてくれました。

研修内容も座学だけではなく、日本の最新技術に触れられる東芝未来科学館や森永のお菓子工場から日本の昔の家に実際に入ることのできる民家園、侍や鎧の資料館もあった小田原城、有名な鎌倉の大仏、ふろしきの使い方講座、リサイクル工場で実際にかばんを作るワークショップなど中高生の興味をひく多彩なアクティビティが盛りだくさんでした。その中でも、やはり海外移住資料館で自分たちのルーツである日本人移民の歴史に触れ、横浜の町を実際に歩きながら、当時の様子を説明してもらった移住学習は日系人子弟である研修生たちにとって、大きな意味がある活動だったと思います。

「私はメキシコではずっと日本人扱いされ、自分でも日本人だと思っていたけど、日本では外国人扱いをされる。私はいったい何人なんだろう？」

と話していたある研修員は、最後のレポートで

「私はメキシコの日系人。メキシコ人でもあり、日本人でもある。それが自分のアイデンティティだとわかりました」

と書いていました。

私自身、以前 JICA の日系社会ボランティアでパラグアイに派遣されたことがあり、南米の日系社会で生活した経験はあるものの、現在生活しているコロンビアのメデジンでは町で日系の方を見かけることはほとんどなく、もう20年近く日系社会からは離れた生活をしていましたが、今回の研修を終えて

改めて「自分も日系1世なんだ」という自覚を持つことができました。日系移住の歴史や現状などこの研修で学んだことを、昨年コロンビア人の友人達と立ち上げたばかりのメデジン日本文化センター「春のひなた」でも伝えていきたいと思います。

最後に、今回の研修に参加した皆さん、皆さんは日本と皆さんの国の架け橋であり、世界をつなぐ希望です。これからの活躍をずっと応援しています。またいつか、世界のどこかで会いましょう。この素晴らしい研修を企画し、支えてくれた日系人協会、JICA 横浜、そしてすべての関係者の皆様、本当にありがとうございました。

7. 総評

明治元年（1868年）、サトウキビプランテーションの労働者としてハワイへ渡ったことから始まる日本人のアメリカ大陸への移住の歴史は約150年の歴史を有しています。その間、各国、各地域の日系社会では日本語学校を中心にコミュニティを形成し、日本語教育及び日本文化の継承を今日まで続けてきています。しかしながら、世代が進むにつれ、日本語学校に通う日系子弟の減少、日系コミュニティへの帰属意識の低下や日系アイデンティティの希薄化といった問題が顕在化し、日本とのつながりもだんだんと弱くなってきているのが現状です。

そのような現状に鑑み、本研修は、現地日系社会での継承語教育の振興を促し、次世代の日系社会を担う人材育成の一環として、「日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本文化、習慣等を学んでもらい、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること」を目的としています。

1987年度より始まり30年以上継続実施してきた訪日研修でしたが、2020年度には新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、その影響から3年間は研修の中止が余儀なくされました。このような状況下にいる日系子弟が同年代の日系人と共に日本文化や祖先の海外移住について学べるよう、訪日研修に代わるオンラインプログラムを実施し、多くの日系子弟に学習の機会を作ってきました。しかしながら、各国の日本語学校からは、訪日研修を目標に日本語学習に励んできた日系子弟にとって、長年の目標に挑むこともできなかったこの期間は、もどかしい想いを抱えた3年間だったとも報告されています。

こうしたコロナ禍を経て、ようやく訪日研修が再開された2023年度日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）第1陣では、中学生年齢の研修員に加え、コロナ禍に研修の機会を得られなかった高校生年齢の研修員の参加も認め、研修の実施に至りました。研修では日系アイデンティティの涵養・強化を企図した移住学習を通じ、身近な家族の歴史や自らのルーツを確認するとともに、祖先への敬意や当時の移住者への共感を育むプログラムを構成しました。こうした移住学習のほかにも、日本の伝統文化や最新技術に触れる機会、中学校体験入学やホストファミリーとの交流といった日本人との交流体験を通じ、日本及び日本人とのつながりに対する誇りや絆を感じることができるプログラムを実施しました。

加えて次世代の日系社会を担う人材育成の観点から、自ら課題を見つけ、自身の考えや意見をまとめ発信する力、自らの考えに基づき行動を起こす力等、思考力・判断力・表現力を高め、課題解決に取り組む要素をプログラムに取り入れ実施しました。研修員は日本的価値観に日々触れる中で、自国との相違点や両国の持つ良さ、また両国の文化・価値観を併せ持つ自身の強みを発見し、両国の架け橋となるべく自らが実現できることは何か等、毎晩の振り返りの時間で自身の考えを深め、意見をアウトプットすることができました。

カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、ベネズエラ、コロンビアからの研修員21名にとって、この3週間は長期間にわたり親元を離れ、集団生活を経験した初めての体験となりました。お互いの中にある言語の壁に試行錯誤しながらも、日本語、英語、スペイン語の3言語を使用しながら、コミュニケーションのとり方、アイディアの共有方法、個々の強みの活かし方、弱点の補い合い方なども学び合いました。またお互いの存在を通して、世界に広がる日系社会の存在や日系社会に共通する価値観、日系社会が受け継いできた文化の誇りについても改めて認識した様子でした。

12～17歳という多感な時期に日本を訪れ、自身の五感を用いて日本を体験した研修員の感想には、「日本はすべてがテレビで紹介されている通りではなかったけれど、だからこそ日本に来て新たな側面を発見することができ、日本での滞在がより楽しいものになりました」「実際に過去の日本がどのような国だったのかも知ったことで、現在の大きく発展した姿に至るまでの日本の勤勉な努力を目の当たりにしました」と、3週間という限られた時間の中、研修員は新たな挑戦と経験から日本という国を肌で感じ、自身の持つ知識を更新しながら、新しい情報を学びに変え吸収してきました。

思考力・知識量においてもまだまだ成長段階である研修員にとって、今後の明確なアクションプランを現時点で打ち出すことは容易ではありません。しかしながら、本研修での学習をきっかけに得た学び、そして国や言語を超えて生まれた人と人とのつながりは、日系人としてのアイデンティティ並びに地域や日系社会との関わり方、さらには世界に広がる日系社会及び日本社会との関わり方について見つめ直すきっかけになったのではないのでしょうか。研修員一人ひとりがこの研修での体験を活かし、今後、彼らが各国日系社会のネットワーク作りに寄与し、日本と自国の架け橋となっていけるよう、今後のさらなる成長と活躍を期待しています。

2023 年度

「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」

募集要項

2023 年 1 月



独立行政法人国際協力機構（J I C A）

2023 年度「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」

募集要項

1. 研修の沿革および目的

本研修は、中南米地域等への移住者の定着・安定のために移住者子孫教育として 1987（昭和 62）年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012（平成 24）年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015（平成 27）年度からは「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」として実施しています。

本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティの強化を図ることを目的としています。

さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

2. 対象国および受入計画数

対象国：10 カ国

受入計画数：58 名 * 2023 年度特別枠含む（+引率者 8 名）

受入		対象国	人数
第 1 陣	5 カ国 22 名 (+引率者 4)	カナダ	4 名
		メキシコ	6 名 *
		ドミニカ共和国	8 名 *
		コロンビア	2 名 *
		ベネズエラ	2 名 *
第 2 陣	5 カ国 36 名 (+引率者 4)	ブラジル	20 名
		ペルー	4 名
		ボリビア	3 名
		パラグアイ	3 名
		アルゼンチン	6 名

* 特別枠については P7 の 14.に記載しています。対象国の応募者をご確認ください。

3. 研修期間（予定）：24 日間

現地の学校事情に合わせ、上記 2.のとおり 2 グループに分けて実施します。

第 1 陣：2023 年 6 月 19 日（月）から 7 月 12 日（水）を予定

第 2 陣：2024 年 1 月 9 日（火）から 2 月 1 日（木）を予定

4. 研修概要 ※プログラムの内容は変更となる可能性があります。

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館等の見学 移住に関する講義、ワークショップ 各研修員のルーツを探る	JICA 横浜 史跡、博物館等
体験入学	授業出席 部活動 日本の中学生との交流等	神奈川県内の中学校（予定）
ホームステイ	日本での実生活体験	各ご家庭（県は未定）
研修旅行	日本の文化・社会・科学技術等の理解	未定
その他	プレゼンテーション指導 作文指導 研修報告会	JICA 横浜及び周辺の会議室

【重要】新型コロナウイルスの感染状況により、実際の研修内容が上記から変更となる可能性があります。

5. 宿泊（研修旅行・ホームステイ期間を除く）

第1陣、第2陣共に JICA 横浜周辺のホテルを予定しています。

6. 引率者

渡航中や本邦滞在中の研修員の生活指導・健康管理、その他不測の事態への対処のため引率者が同行します。今年度の引率者の割当国（予定）は以下のとおりです。

第1陣：コロンビアから日本語学校教員1名（予定）、メキシコ、ドミニカ共和国、ベネズエラから追加で健康・安全管理員3名

第2陣：ブラジルから4名（日本語学校教員1名及び健康・安全管理員3名）

引率者の推薦については、JICA 在外事務所の指示に従ってください。

引率者（日本語学校教員）の主な役割は、以下のとおりです。

- (1) 本邦への往路・本邦からの復路における研修員の引率
- (2) 研修員の健康等、生活面に係る指導及び対応
- (3) 研修プログラムの同行及び実施補助
- (4) 引率者最終報告会の実施
- (5) その他、研修において必要な業務

引率者（健康・安全管理員）の主な役割は、以下の通りです。

- (1) 研修員宿泊フロアの夜間巡回による安全管理・指導
- (2) けがや急病などの一次受付、及び二次対応者への連絡

※夜間に上記役割を遂行していただくことを想定していますので、日中は、体を休め

る時間を取っていただきます。

※来日後、引率者へのブリーフィングを実施します。

※引率者(日本語学校教員)については以下2点の条件を満たしている方を希望します。

(1) 教師歴について

日本語学校での勤務歴が2年以上で、研修員と同年代を対象としたクラスを担当している方。(または担当したことがある方。)

→ 職務経験が2年に満たない先生や、2年以上であっても幼児クラスや小学校低学年クラスしか担当したことがない先生の場合、研修中の研修員指導がうまくいかない場合があります。

(2) 日本語能力について：

1世の先生でない場合には、少なくとも日本語能力試験 N2 程度以上の日本語能力を有する方。

→ 1陣についてはカナダ、2陣についてはスペイン語圏の国々から参加者が来日しますので、先生の日本語能力が N2 級程度に満たない場合、当該国々からの研修員とのコミュニケーション及び研修員への指導に大きな支障をきたします。

※引率者(健康・安全管理員)は以下の条件を満たしている方が対象となります。

(1)20歳以上の日系社会の関係者(日本語学校教員、日本人協会会員、JICA 帰国研修委員、日系の大学生などが該当)で、日常、日系社会において研修員の同世代と接している方が望ましい。(参加研修員の保護者は対象外)

(2)日本語能力は日常会話程度以上とし、研修員とスペイン語/ポルトガル語で研修員と意思疎通ができる方

(3)健康で責任をもって業務を遂行できる方

7. 研修員の応募資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

(1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫(※)であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※本事業対象国に定住していること(主たる生活基盤があること)。

(2) 海外の日系団体が運営する日本語学校に在籍し、成績優秀、品行方正かつ将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質があると認められること。

(3) **研修参加時点**で、原則、日本の中学生相当(12歳以上、15歳以下)であること。

(4) 親権者の同意が得られること。

※共同親権が法制化されている国においては、全親権者の同意が得られること。

(5) 心身ともに健康で、本邦での集団生活に耐えられること。

(6) 原則、来日から帰国まで JICA 指定の全日程に参加できること。

8. 応募書類

【研修員】

(1) JICA が指定する以下の様式を使用して応募してください。

ア. 日本語学校責任者推薦書

(様式第 2 号)

イ. 身上書

(様式第 3 号)

氏名：この書類に書かれた氏名の表記（漢字・ひらがな・カタカナの区別も含みます）にしたがって、**査証申請に必要な合格通知書**を在外事務所にて発行します。**読みやすい字**で記入してください。

氏名アルファベット：

この氏名により、航空券の予約の確認等を行います。**読みやすい字**で、**渡航の際に使用する旅券に書かれているとおりに**記入してください。**スペル、名字と名前の順番、ミドルネームの有無に注意**して記入してください。

国籍：**来日に使用する旅券の国籍を記入してください。二重国籍の場合でも、今回の来日に使用する方の旅券の国籍だけ記入してください。さらに、日本以外の旅券を使用する場合は、日本国籍の有無についても記載してください。**

ウ. 写真 2 枚

最近 6 ヶ月以内に撮影したもの。

（縦 4cm×横 3cm、上半身、正面、脱帽、裏面に氏名・国名を記入）

※1 枚は身上書に貼付してください。（データ可）

もう 1 枚はデータで各在外事務所へ他の応募書類と一緒に提出してください。

エ. 親権者の誓約・同意書

(様式第 4 号)

※共同親権が法制化されている国では、全親権者のものが必要となります。

オ. 健康診断書

(様式第 5-A 号：和文、または第 5-B 号：英文)

和文、英文のどちらか一つを提出してください。

※全ての項目を受診し、記入されているかどうか確認をしてください。未受診項目や記入漏れがある場合は受け付けられません。（既往症、レントゲン写真番号、服用中の薬など、特に留意してください。）

※アレルギー等の持病や日常的に摂取している薬等がある場合は必ず申告してください。

※記入事項に虚偽のものと判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

(2) 日本語作文

400字詰め原稿用紙3枚以内(1000字程度)。課題はJICA在外事務所が指定します。応募者本人が直筆したものを提出してください。

(3) 来日に使う旅券の写し

応募時点で旅券を所有している場合、査証や出入国記録が残されている全てのページを提出してください。

【引率者】

引率者についても所定の様式があります。

(1) JICA 指定様式

ア. 推薦書 (引率者用) (様式第6号)

イ. 身上書 (引率者用) (様式第7号-1、第7号-2)

※様式第7号-1については、上記(1)のイ.の説明文を参照してください。

※様式第7号-2については、様式に記載されているテーマについて執筆してください。

ウ. 誓約書 (引率者用) (様式第8号)

エ. 健康診断書 (様式第5-A号：和文、または第5-B号：英文)

※健康診断書の様式については、研修員の応募書類と共通です。(上記(1)のオ.をご確認ください。)

(2) 来日に使う旅券の写し

応募時点で旅券を所有している場合、査証や出入国記録が残されている全てのページをご提出ください。

9. 募集期間

JICA 在外事務所への応募書類提出締切日は各在外事務所により決定されるため、各在外事務所の指示に従ってください。

応募の時点で旅券を持っていない応募者は、ただちに旅券取得の手続きを開始してください。外務省へ査証の手続きを依頼する際に、必ず、**旅券に記載される正しい氏名の情報が必要になります。**また、合格通知を受けてから旅券の手続きを始めると、来日に必要な査証取得が間に合わない可能性があります。査証取得が間に合わない場合には、研修への参加ができなくなることがあります。

※ただし、合否に関わらず、**旅券取得経費について JICA は負担しません。**

10. 所要経費の支給

JICA は規程に基づいて次の経費を負担します。

(1) 指定する経路の往復航空運賃（航空券の現物支給とし現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料も JICA が負担します。）

(2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費

(3) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中生活費（食費）

(4) 宿泊施設の利用料金

(5) 海外旅行保険（往路・研修期間・帰路に係る期間）

※原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。

※本邦滞在中は、技術研修/日系研修の研修員と同様、メディカルカードを作成します。研修中の傷病については、研修スタッフが同行してメディカルカードが使える病院に行きますので、研修員に診療費の支払が生じることはありません。なお、既往歴や歯の治療は対象外です。

(6) 所外研修、中学校体験入学、ホームステイ、研修旅行に係る横浜での滞在先と訪問先の間往復旅費

(7) 研修先に対する研修経費

(8) 支度料および雑費（引率者のみ一般の技術研修員に準じて支給されます。）

※健康診断費用について

2020 年度第 1 陣仮合格者も含め、参加者は全員自己負担となりますので、ご留意願います。

11. 研修報告

研修員は研修終了時に本研修についての感想文を提出します。提出された感想文は製

本の上、帰国前に研修員本人に手交します。(なお本感想文集は体験入学受入中学校などの研修先や JICA 在外事務所にも配布します。)

12. 研修員の資格取消

研修員が次の事項に該当する場合、JICA はその資格を取り消すことがあります。
この場合、(6) および (8) の事項を除き帰国に必要な経費は研修員の自己負担とします。

- (1) JICA の規則、指示および決定に従わなかったとき
- (2) 研修先の規則に違反した場合
- (3) 日本国の法令に違反した場合
- (4) 本人の故意、重大な過失または怠慢等により、研修を継続することが困難と認められるとき
- (5) 本人の都合により研修を中断したとき
- (6) 心身の著しい障害、傷病等のために研修を継続することが困難と認められるとき
- (7) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- (8) その他 JICA がやむをえないと認める事由があるとき

13. その他留意事項

- (1) 家族の同伴は認められません。原則として、往路・復路とも研修員が集合し、集団で渡航します。
- (2) フライトスケジュールについては JICA 在外事務所が決定の上、合格者に対して連絡します。
- (3) 滞在延長や帰路変更は認められません。研修終了後は JICA が定めるスケジュールで帰国してください。
- (4) 応募者は、事業対象国の国籍を有していること(あるいは日本の国籍を有すること)が望ましいです。
- (5) 合格者は「肖像権および個人情報使用承諾書」を提出してください。本研修期間中、JICA が契約するカメラマン又は委託先が、広報(各種報告書含む)用として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、署名してください。
- (6) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、研修プログラムの変更、または来日が中止となる可能性があります。
- (7) 2023 年度は JICA 横浜で施設の改修工事が行われているため、同施設周辺の宿泊となり、研修プログラムの実施は周辺施設となる場合があります。

14. 2023 年度第 1 陣の特別枠について

(1) 特別枠とは

2020 年度～2022 年度新型コロナウイルス感染拡大により、本邦研修が中止となり、多くの子弟の来日の機会が失われました。可能な限り多くの子弟の来日を実現できるよう、以下の対象国について、通常募集の対象人数に加えて追加募集するものです。

(2) 対象国（人数）

メキシコ（3）ドミニカ共和国（4）コロンビア（1）ベネズエラ（1）

(3) 対象者 ※以下のすべてに該当する者

- ・2023 年度研修参加時点において、日本の高校生相当（16 歳以上、18 歳以下）の者
- ・2020 年 6 月から 2023 年 1 月までの期間、日本語学校に在籍していた者で P3 の 7. (2) に該当する者

なお、特別枠候補者として 2020 年度中学生プログラムの仮合格者を優先します。該当国で辞退者があった場合は各国より高校生年齢の者で、参加を希望する者を候補者として選出します。

(4) 応募資格条件

本プログラムは中学生を対象としているため、全日程を中学生年齢の参加者と共に行い、中学生の研修内容であることを応募時に本人及び保護者が理解し、同意していること。

- ① 研修期間中、同一グループに 12 歳から 18 歳までの子弟が混在すること。
- ② 生活面、学習場面で年齢差が生じることを考慮し、発言、行動できること。
- ③ プログラムで予定されている日本の中学生との交流において、中学 1 年生の教室に入り、学習や交流する可能性があること。

上記項目以外の資格要件は通常募集枠の応募者と同様です。P3 の 7. をご確認ください。2020 年度の中学生プログラムの仮合格者で日本語学校の推薦書を提出済みの応募者は様式第 2 号（学校推薦書）の省略が可能です。

応募書類は必ず 2023 年現在のものを作成し、提出してください。

以上

別紙 1 「日系社会次世代育成研修(中学生招へいプログラム)」研修員応募書類様式

- 日本語学校責任者推薦書（様式第 2 号）
- 身上書（様式第 3 号）
- 親権者の誓約・同意書（様式第 4 号）
- 健康診断書（様式第 5-A 号：和文、または第 5-B 号：英文）

別紙 2 「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」引率者応募書類様式

- 推薦書（引率者用）（様式第 6 号）

- 身上書（引率者用）（様式第 7 号-1、第 7 号-2）
- 誓約書（引率者用）（様式第 8 号）

※様式第 1 号は JICA 在外事務所が作成する書類なので、この募集要項には添付していません。